

## 平成28年度博士課程教育リーディングプログラム委員会議事概要

1. 日時：平成29年3月6日（月）15：00～18：00

2. 場所：弘済会館 4階「萩」

3. 出席者：

（委員）有信委員、安西委員、内堀委員、太田委員、岡田委員、奥村委員、金子委員、鎌田委員、北川委員、北山委員、窪田委員、熊谷委員、佐藤委員、新海委員、永山委員、長谷川委員、八田委員、林委員、室伏委員、吉野委員、鷺谷委員

（文部科学省）角田大学振興課長、井上大学改革推進室長、吉成大学振興課長補佐

（事務局）京藤監事、長澤人材育成事業部長、林大学連携課長

4. 議事概要

（1）POフォローアップ報告書・現地視察報告書等について（報告事項）

「委員会の審議内容等の取り扱いについて」（平成23年6月6日博士課程教育リーディングプログラム委員会決定）1. 2）に関する事項につき、非公開。

（2）平成25年度採択プログラムの中間評価結果について

「委員会の審議内容等の取り扱いについて」（平成23年6月6日博士課程教育リーディングプログラム委員会決定）1. 2）に関する事項につき、非公開。

（3）平成23年度採択プログラムの事後評価について

- ・平成23年度採択プログラムの事後評価について、【資料12】評価要項（改正案）、【資料13-1】事後評価プログラム担当者アンケート調査（案）、【資料13-2】事後評価学生アンケート調査（案）、【資料13-3】事後評価修了者アンケート調査（案）、【資料14】PO現地訪問時事後評価項目確認表（案）、【資料15】事後評価調書（案）、【資料16】事後評価書面評価書（案）、【資料17】事後評価現地調査実施要領（案）、【資料18】事後評価ヒアリング実施要領（案）、【資料19】事後評価結果案に対する意見申立てについて（案）、【資料20】事後評価結果（様式）（案）について、事務局より説明があり、質疑応答の後、各資料等の修正について、委員長一任とすることで了承された。主な意見は以下のとおり。

○事後評価調書の「学生が主体となって計画したセミナー・シンポジウムの実施件数」は、プログラム開始によってどの程度増加したかを問うものだと思うが、本当に的確な統計が取り得るのか。どのレベルのものを答えれば良いのか、明確にする必要がある。

○事後評価調書の留学生の受入れ数や学会発表件数等で、平成22年度と28年度のみを記載することになっているが、年度によってかなり変動することから、平成22年

度から28年度までの各年度の数値を記載するようにした方がより適切な評価ができるのではないか。

(4) 採択プログラムに係るフォローアップについて

- ・採択プログラムに係るフォローアップについて、【資料2 1】採択プログラムに係るフォローアップについて（改正案）と【資料2 2】平成29年度フォローアップ等日程（案）について、事務局より説明があり、各資料等の修正について、委員長一任とすることで了承された。

(5) その他

- ・事業全体に関して意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

○企業では、博士課程教育リーディングプログラムについてまだあまりよく知られていないようである。プログラムに大学の教員が相当な時間を割いていることを考えると、文部科学省からもっと企業へ広報を行った方が良いのではないかという意見が部会から出ている。

○各プログラムとも特任教員を多く雇用しているが、支援期間終了後の雇用が保証されていないため、終了を見越して優秀な特任教員が離職し始め、課題を抱えている大学がある。支援期間終了後の体制をどうするかについてのビジョンが各大学において明確にされれば、いくらかでも緩和されるのではないか。

○博士人材はなかなか企業で採用しにくいという意見もあるが、プログラムの学生をインターンシップに参加させると、受入先企業の評価は大変高い。企業に負担がかかる点はまだ課題ではあるが、このプログラムで博士人材のインターンシップを実施したことは大きな意味があると思われる。こうしたことについて、各採択プログラムから受入企業による感想等をもらおうと良いのではないか。

○大学が変革を起こそうとしている一方で、人材の受け手側である企業等ではこのような人材をどう生かしていくかについて大学と連携した動きがあまりないように思われる。プログラム修了者が本格的に輩出され始めた今こそが連携を取る時期ではないか。

- ・次回の委員会は、来年の2月又は3月に開催することとした。